

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平殿

報告日付：平成27年11月9日
事業ID：2015247593
事業名：青森港・港内学習事業の実施
団体名：青森港国際化推進協議会
代表者名：会長 鹿内 博
TEL：017-734-5415
FAX：017-734-5146
事業完了日：平成27年9月30日

事業費総額	9,050,877円	(収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	1,810,877円	
助成金額	7,240,000円	(千円未満は切り捨て)

事業内容：

1. 青森港啓発事業

青森港は、かつては青函連絡船の発着場として、または遠洋漁業の港としての歴史、現在では「みなとオアシスあおもり」に認定されたように、数多くの観光施設・周遊スポットがあります。青森港では、このような歴史や素晴らしい景観を多くの人に知ってもらうために啓発事業を展開した。

(1) 『青森港海のボート天国』の開催

①日時：7月25日～26日

②場所：青森港内（聖徳公園前）

③内容：7月25日、26日に、様々な種類の船を体験でき、更には青森港を海から知る機会として、「青森港海のボート天国」を実施しました。

当日は、パワーボート、クルーザーヨット、蒸気船などが運航し、参加者には、海から見た青森港の景色とそのかつての姿や役割、船の仕組みなどの解説を乗組員から受けました。

④参加者数：621名

(2) 青森港クルーズ客船写真パネル展の開催

①日時：7月26日～9月30日

②場所：あおもり北のまほろば歴史館（青森市沖館二丁目2-1）

③内容：ダイヤモンド・プリンセスが着岸する沖館埠頭近くに、7月26日に青森港の新たな施設として「あおもり北のまほろば歴史館」がオープンし、その館内において、青森港に寄港するクルーズ客船のみならず、海外の

様々なクルーズ客船など、クルーズ客船の魅力を多くの人に伝えるため写真パネル展を開催した。

④参加人数：4,961名（期間中の入館者数）

（3）「海の日発祥の地・青森港」の啓発

①内容：海の日発祥の地とも言われる青森港について、これまでの歴史や現在といった発展の姿を多くの人に啓発するため、歴史などをまとめた小冊子及びDVD（映像）を作成した。

2. 高校生コンサルタント学習事業

青森港においては、今年も国内外のクルーズ客船が寄港したが、なかでも7月から8月にかけて計10隻が寄港した。今回、このクルーズ客船が寄港することで、多くの方が青森港を訪れる機会を活用し、地元の高中生らによる受入等の新たな取り組みの創出を図るために事業を展開した。

（1）県立青森高校スーパーグローバルハイスクールクラス生徒らによる歓迎対応

①日時：7月15日

②場所：青森港沖館埠頭及び青森市中心市街地

③内容：7月15日のダイヤモンド・プリンセス寄港時において、青森県立青森高校スーパーグローバルハイスクールクラス（以下、SGH）の生徒34名らによる客船受入を実施した。

今回は、SGHの英語実習の場としても活用するため、生徒らは、外国人乗客に対して観光情報や駅までの行き方などを英語で案内を行った。また、午後にはダイヤモンド・プリンセスの船内見学を行い、船内の案内をしたクルーがあえて英語で説明し、船内見学会を英語学習の場としても活用した。

なお、今回参加した生徒らから実習体験評価シートを提出してもらい、今後のクルーズ客船受入体制・取組の改善に関する資料とした。

④参加人数：34名（青森高校SGHクラス生徒）

（2）弘前市、五所川原市等との広域連携

①日時：8月1日、5日、26日、30日

②場所：青森港沖館埠頭、新中央埠頭

③内容：8月1日、5日、26日のダイヤモンド・プリンセス、8月30日のダイヤモンド・プリンセスと飛鳥Ⅱの寄港に合わせ、青森港の魅力を国内外多くの方に発信するため、また、新たなクルーズ客船受け入れ態勢の構築のため、弘前市、五所川原市、下北地方と連携事業を実施した。

実施内容としては、客船寄港時に、各地元の歓迎アトラクションの実施、観光PRブース・特産品販売コーナー設置を行い、乗船客をおもてなしするとともに、埠頭に訪れた地元の方に対しても、青森港の周辺地における観光素材等をPRした。

なお、8月30日の飛鳥Ⅱ、ダイヤモンド・プリンセスの出港時には多

くの市民らとともに、青森ねぶた囃子と五所川原立佞武多囃子にて見送りを行いました。

④参加人数：100名程度（期間中の事業参加者、見送り参加者より）

（3）青森県立青森中央高校による乗船客歓迎のための演劇の実施

①日時：8月30日

②場所：ねぶたの家ワ・ラッセ（青森市安方1丁目1-1）

③内容：ダイヤモンド・プリンセスと飛鳥Ⅱが同時に寄港した8月30日に、青森県立青森中央高校演劇部が、外国人乗船客にも楽しんでもらえるように英語字幕付きの演劇を披露した。演劇は、午前と午後の2回行い、ともに観客がほぼ満員になるなど、多くの乗船客に見ていただけた。

④参加人数：300人程度（観覧者数）

（4）子供伝統芸能の披露

①日時：7月24日

②場所：青い海公園（安潟みなとまつり会場内）

③内容：7月24日のダイヤモンド・プリンセス寄港時において、青い海公園（安潟り会場内）において、ダイヤモンド・プリンセスの乗客歓迎のために、子供らによる県内各地（4町村）の郷土芸能を披露した。

④参加人数：100名程度（観覧者数）

3. クルーズ客船スケッチ大会

青森港には、毎年8月2日から7日に開催するねぶた祭りに合わせて客船が来ており、これに合わせて今回、小中学生・小学生親子を対象に船内見学会を実施した。なお、参加した子供達には、この船内見学会を通じて、見たこと、感じたことを絵に描いてもらいました。

（1）青森港クルーズ客船船内見学&スケッチ大会

①日時：8月1日、4日～6日

②場所：青森港沖館埠頭、新中央埠頭

③内容：各船社の協力のもと、ダイヤモンド・プリンセス（8月1日）、ぱしふいっくびいなす（8月4日）、にっぽん丸（8月5日）、飛鳥Ⅱ（8月6日）の寄港に合わせ、小中学生及び小学生親子を対象とした船内見学会を実施した。今回実施した。

【1】ダイヤモンド・プリンセス（8月1日実施）

8月1日に寄港した「ダイヤモンド・プリンセス」では、小中学生22名が参加し、日本で作られた大型客船ダイヤモンド・プリンセスを見学しました。今回の見学会では、随同行したクルーの方が英語を織り交ぜながら説明をし、船内見学をしながら英語学習の場としても体験できました。

【2】ぱしふいっくびいなす（8月4日実施）

8月4日に寄港した「ぱしふいっくびいなす」では、小学生親子13

名が参加しました。ぱしふいっくびいなすの船内を見学するほか、特別に由良船長からクルーズ客船に関する講演もしていただきました。

【3】 につぼん丸（8月5日実施）

8月5日に寄港した「につぼん丸」では、小学生親子23名が参加しました。につぼん丸では、営業時間外であった船内のショップを特別に開けてくれるなど、船内の至るところを見学できました。

【4】 飛鳥Ⅱ（8月6日実施）

8月6日に寄港した「飛鳥Ⅱ」では、小学生親子27名が参加しました。飛鳥Ⅱでは、今回特別に飛鳥Ⅱのブリッジ（操舵室）に入れてもらいまして、飛鳥Ⅱや船の仕事に関する色々なことを教えてもらいました。

④参加人数：85名

(2) 青森港クルーズ客船船内見学&スケッチ大会作品展示会

①日時：9月11日～（11月1日）

②場所：あおもり北のまほろば歴史館（青森市沖館二丁目2-1）

③内容：8月1日、4～6日に実施した「青森港クルーズ客船船内見学&スケッチ大会」の参加者が描いた図画及び感想文を多くの人に見てもらべく、作品展示会を行った。なお、作品や感想文については、今回見学会を実施していただいた船会社へ、次年度も引き続き開催していただく足がかりとしてお渡しした。

④参加人数：1006名（期間中の入館者数）

事業目標の達成状況：

1. 申請時に設定した目標の達成状況：

本事業においては、「青森港が「海の記念日」発祥の地とも言われ、また、古くは青函連絡船により本州と北海道を結ぶ玄関口として発展してきた歴史のある港でもあることを、子供達をはじめ、多くの方に知ってもらい、また、それらを学ぶ機会を創出する。」ことを目標にし、各取り組みを展開しました。

各取り組みにおいて、小中学生らをはじめ多くの参加者があったことにより、クルーズ客船をはじめ様々な船・海に親しめる機会を創出でき、また青森港を知ることができたものと考えます。しかし、これらを学習する機会に結びつけるものとしては、高校生らによる歓迎が1度しか実施できなかったため、授業の一環として実施できるようにするという目標については、課題を残したと考えます。

目標の達成状況としては、概ね達成できたものと考えますが、次年度以降実施に課題が残るものだったと評価致します。

2. 事業実施によって得られた成果

事業実施により得られた成果としては、子供達が積極的に参加できる事業が創出

されたこと、また今後の事業を実施するうえで学校や自治体間と連携できる仕組みが生まれ、新たなクルーズ振興策が創出されたことであります。

特に、外国客船における実践的な英語学習の場や、小中学生・小学生親子を対象としたクルーズ客船船内見学会においては、クルーズ客船の新たな活用法として非常に大きな財産となりました。

3. 成功や失敗の要因

今回の事業において失敗したことは、「高校生コンサルタント学習事業」において申請時における事業に取り組みなかったことがあったことが挙げられる。この件については、高校側との事業実施に向け、調整する時間が無かったこと、更には参加できる実施日が限られていたことで、学習機会の場としてあまり機能しなかったものと考えます。この他にも、申請時に挙げた事業に取り組みなかったのが多々あったことについては、全体的に事業の準備期間が無く調整が図られなかったことが要因と考えます。

事業成果物：

- ・ 青森港歴史PR小冊子 5000部



- ・ 青森港PRグッズ（クリアファイル2種） 5000枚



・青森港の歴史PR映像集 一式



・青森港クルーズ客船写真パネル 15枚



(様式) 2/2

収支計算書

(平成27年6月1日から平成27年11月1日まで)

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	受入済額	未調達額	備考
日本財団助成金収入	11,100,000	7,240,000	7,240,000	0	
自己負担	2,800,000	1,810,877	1,810,877	0	
収入合計	13,900,000	9,050,877	9,050,877	0	

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
委託費	4,871,200	3,607,544	2,195,544	1,412,000	
印刷製本費	1,409,200	1,196,640	959,040	237,600	
消耗品費	838,950	155,659	155,659	0	
食糧費	256,000	162,500	162,500	0	
報償費	960,000	419,880	419,880	0	
賃借料	2,251,200	1,284,790	1,068,790	216,000	
通信運搬費	254,400	44,294	44,294	0	
燃料費	710,000	73,700	40,700	33,000	
備品購入費	2,113,400	1,806,624	1,806,624	0	
保険料	136,080	88,482	88,482	0	
手数料	99,570	210,764	206,336	4,428	
支出合計	13,900,000	9,050,877	7,147,849	1,903,028	